顎骨とその周囲の炎症
画像検査法と画像所見について

スライドハンドアウト
症例無し版：https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~nisiyama/inf_handout.pdf
症例あり版:：https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~nisiyama/inf_handout-all.pdf

新潟大・歯学部歯学科　４年生　講義ノート
2023.11.17　顎顔面放射線学分野・西山

１．顎骨とその周囲の炎症

多くは歯性感染（odontogenic infection）が原因である。歯性感染の場合、原因となる歯ないし歯周組織の同定、および炎症の拡大方向の情報が画像内にある。これらを読み取るためには、解剖構造や組織についての基礎知識も必要不可欠である。

1)　原因

①　歯性感染（odontogenic infection）　--- 最も多い

②　抜歯などの術後、外傷後の感染

③　その他、薬剤関連（MRONJ を含む）、放射線性、原因不明など

症例無し

2)　波及・進展範囲と瘻孔

歯槽骨炎、骨髄炎、骨膜炎、骨周囲の炎症、外歯瘻、内歯瘻

3)　時期、活性

急性、亜急性、慢性

症例あり

4)　広がり方

蜂窩織炎、膿瘍形成

5)　特殊な型

Garré 骨髄炎、SAPHO 症候群

6)　特異性炎

梅毒性、放線菌性

7)　関連する解剖構造、特に筋膜と筋膜隙について

２．検査法と各種所見について

1)　目的別画像検査法

硬組織主体の観察、軟組織主体の観察

2)　骨膜下膿瘍、骨膜反応

3)　放射線性骨壊死、放射線骨髄炎

4)　骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（ARONJ）、薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)

5)　脂肪・脂肪髄の変化

6)　ガス壊疽と気腫

３．炎症の本質と画像所見への影響

1)　経静脈造影に関与する因子

2)　MRI の T2 強調像に関与する因子

４．境界の不明瞭性と他疾患との鑑別について

1)　境界の不明瞭性

病巣中心と反応が主体となる領域、感染性と非感染性、急性と慢性と亜急性、X 線透過像（骨吸収）と不透過像（骨硬化）、局所と全身

2)　炎症性疾患と関連する頭頸部の石灰化

リンパ節の石灰化、扁桃結石（石灰化）、頸動脈（壁）の石灰化